



bousai/bouhan通信

平成28年10月 一の宮小防災リーダー

8日未明に起きた阿蘇中岳の噴火。熊本地震に続き、またも災害に見舞われてしまいました。場所によっては噴石等による被害に遭われたご家庭もあると聞いております。お見舞い申し上げます。

学校も火山灰に覆われ、窓ガラスも汚れがひどくほとんど視界が閉ざされてしまいました。早速、教育委員会・職員で校舎内外の火山灰除去を行いました。それでも、まだかなりの量が残っており、特に、駐車場の処理が追い付かず、登下校時に火山灰が舞い上がっていました。困っていた折、消防団の方に協力を依頼したところ、快く引き受けていただきました。16日に、消防団第1・2分団（東・分・町・北）の方々とPTA役員の方々にご協力いただき、きれいに除去していただきました。大変助かりました。心より感謝申し上げます。



噴火が起きた時は、逃げなきゃいけないのかと結構怖いかったです。ほくの家にも火山灰がけっこう積もっていました。

月曜日、学校に来てみたら、きれいになっていたの、誰かがやってくださったんだと思いました。ありがたいなと思いました。（長秀）

不審者にご注意を！見守りにご協力を！

一の宮小・阿蘇小校区で、不審者の目撃情報が寄せられています。学校でも子どもたちに注意喚起を行っています。ご家庭でも声かけをお願いします。

また、不審人物・不審車両等を見かけられた場合は、学校・警察までご連絡ください。地域全体で子どもたちを見守っていきましょう。

ご協力、よろしくお願いします。

「宮城で学んだこと」

五年 河本 長秀

ぼくは、宮城で地震、津波について学びました。まず、高屋小学校で荒明きよし先生にうかがいました。きよし先生は、以前大曲小学校に勤めていて、そのとき地震があり、津波がきました。そして、電気も水もガスもないので風呂に入れず、十一日目やっとお湯をかぶることができたと話されています。ぼくも六日間くらい風呂に入られませんでした。だから、やっと風呂に入られた時は、とてもうれしかったです。たんだなと思いました。

また、周りの家ががれきから学校を守ったとも話されています。大曲小学校に津波が一メートル九十センチメートルもおしよせてきたそうです。その高さだと、ぼくはおぼれてしまいます。そんな中、きよし先生たちは小学校にひなんしてきた人たちの世話をしていました。ぼくは、熊本地震の時、自分のことだけでいいだけで、他のひなんしている人たちに何もできませんでした。ぼくがきよし先生の言葉で一番心に残っているのは、「震災の教訓から、宮城の学校では災害を前もってとらえて、前もって備える。そして、経験が一番、教育が一番。」という言葉でした。ぼくは、将来、先生になる夢をもっているのです、この言葉をいつまでも忘れないようにしたいと思いました。

次に、ローズファクトリーガーデンで学んだことは、津波の恐ろしさについてでした。「津波はいほう十メートル」と発令されていたのですが、その意味を理解できなかった人たちが多くて、津波に流されていきました。そして、津波は地形でも変化します。雄勝では、実際には十メートルではなく、十六・三メートルの津波高に変化しました。だから、自分の地域の地形を理解することが大事だと思いました。雄勝小のみんなはふっこうに向け、いろいろなことをしていたので、ぼくも何か熊本の役に立つことをしようと思いました。例えば、仮設住宅に行って、ひさいした方たちとふれあうことができればいいなと思います。

また、ぼくは、今後家族や友達に宮城で学んだことを伝えていき、これからどういう風に熊本の人たちに元気をあたえられるかななどを考えながら、取り組みようと思います。そして、また同じような災害が起きたら、宮城で学んだことをいかして、自分のできるかぎりのことをしようと思います。ぼくは、宮城でもいろいろなことを学ばせていただいたり、お世話になったりしたので、このことを一生忘れないと思います。

